

第13節 触れ合い活動の場

13-1 調査

1. 調査項目及び調査地点等

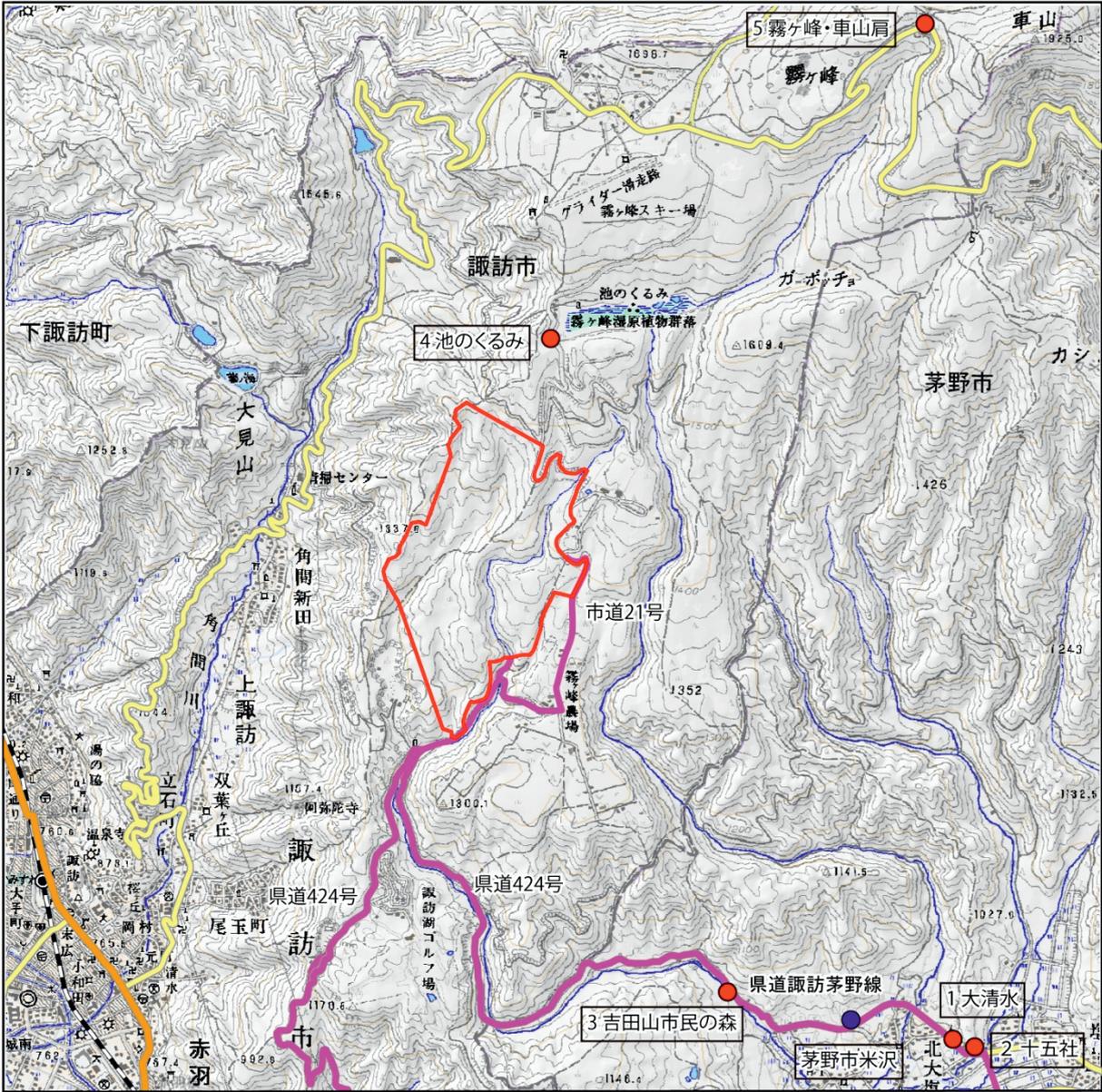
調査項目及び調査地点等を表4-13-1、2及び図4-13-1に示す。なお、交通の状況の調査地域及び地点は、「第2節 騒音」、「第3節 振動」と同様とした。

表4-13-1 現地調査内容（触れ合い活動の場）

環境要素	調査項目	調査方法	調査頻度・時期等	調査地点数
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場の分布・利用状況・景観の状況	現地踏査	春季、夏季、秋季、冬季（4季）	5地点
	利用状況・資源状況・周辺環境の状況	施設管理者または利用者からの聞き取り	1回	5地点
	交通の状況	現地測定（「第2節 騒音」の調査結果引用による）	1回（24時間連続）（「第2節 騒音」の現地調査と同様）	—

表4-13-2 触れ合い活動の場に係る現地調査地点の設定理由

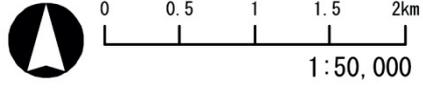
地点番号	地点名	設定根拠
1	大清水	工事関係車両の走行ルート沿いに位置し、主な触れ合い活動の場である大清水における触れ合い活動への影響を把握するため、調査地点として選定した。
2	十五社	工事関係車両の走行ルート沿いに位置し、主な触れ合い活動の場である十五社における触れ合い活動への影響を把握するため、調査地点として選定した。
3	吉田山市民の森	工事関係車両の走行ルート沿いに位置し、主な触れ合い活動の場である吉田山市民の森における触れ合い活動への影響を把握するため、調査地点として選定した。
4	池のくるみ	対象事業実施区域の近隣に位置し、主な触れ合い活動の場である池のくるみにおける触れ合い活動への影響を把握するため、調査地点として選定した。
5	霧ヶ峰・車山肩	対象事業実施区域の近隣に位置し、主な触れ合い活動の場である霧ヶ峰・車山肩における触れ合い活動への影響を把握するため、調査地点として選定した。
—	永明寺山公園	工事関係車両の走行ルートからは外れていることから、調査地点として選定しなかった。



凡例

- 対象事業実施区域
- 触れ合い活動の場調査地点
- 交通量調査地点
- 想定搬出入ルート

図 4-13-1
触れ合い活動の場調査地点



2. 調査結果

1) 触れ合い活動の場の分布

触れ合い活動の場の分布調査結果について、一覧を表 4-13-3(1)～(5)に示す。

表 4-13-3(1) 触れ合い活動の場の分布調査結果（地点 1）

調査地点	地点 1 大清水	
現況写真		調査結果
	概況	湧水が豊富に湧き出し、多くの人 が水を汲みに訪れる。茅野市の水 道水源の一つとなっている。飲料 水や生活用水としての利用のほ か、野沢菜等の葉洗いに利用され ている。なお、この場所から対象 事業実施区域は見えない。
	春季	水汲みに訪れている人の利用が見 られた。
	夏季	
	秋季	
	冬季	水汲みに訪れている人の利用が見 られた。 野沢菜の収穫時期ながら、洗浄し ている状況は確認されなかった。 調査を実施した年は、野沢菜が例 年に比べて著しく不作とのことで あった。

表 4-13-3(2) 触れ合い活動の場の分布調査結果（地点 2）

調査地点	地点 2 十五社	
現況写真		調査結果
	概況	北大塩地区の東に鎮座する神社で ある。県道 424 号に面している。 地元住民が参拝、散策等で利用し ている。秋（11 月下旬）に行われ る大祓祭の際の利用が最も多い。 なお、この場所から対象事業実施 区域は見えない。
	春季	調査時の利用は確認されなかつ た。
	夏季	
	秋季	
	冬季	

表 4-13-3(3) 触れ合い活動の場の分布調査結果（地点 3）

調査地点	地点 3 吉田山市民の森	
	現況写真	調査結果
		概況 茅野市が設置している。観察会等で自然に触れ合う機会、森林作業体験、ウォーキング等に利用されている。開山期間は、毎年4月1日～11月14日の間。工事用車両の通行を計画している県道424号沿いの横河口を調査対象とした。なお、この場所から対象事業実施区域は見えない。
		春季 調査時の利用は確認されなかった。
		夏季 駐車車両と伐採された原木丸太が集積されている状況を確認した。
		秋季 閉山後であり、利用の状況は確認されなかった。
		冬季 閉山期間中であり、利用の状況は確認されなかった。

表 4-13-3(4) 触れ合い活動の場の分布調査結果（地点 4）

調査地点	地点 4 池のくるみ	
	現況写真	調査結果
		概況 八ヶ岳中信高原国定公園内に位置している。踊場湿原とも呼ばれ、八島湿原、車山湿原と合わせて霧ヶ峰湿原植物群落として国の天然記念物に指定されている。駐車場と散策路が整備されている。なお、この場所から対象事業実施区域は見えない。
		春季 調査時は樹木の新緑が見られたが、草原は冬枯れの状態であった。ハイキング、散策等の利用が見られた。
		夏季 草原は緑となり、草本類の開花も見られた。ハイキング、散策、ツーリングの立ち寄り等の利用が見られた。
		秋季 周辺のカラマツの黄葉が見られたものの、草原は枯れていた。調査時の利用は確認されなかった。
		冬季 積雪があったものの、駐車場は除雪されており、駐車スペースが確保されていた。調査時の利用は確認されなかった。

表 4-13-3(5) 触れ合い活動の場の分布調査結果（地点 5）

調査地点	地点 5 霧ヶ峰・車山肩	
現況写真		調査結果
 <p>夏季調査時撮影</p> <p>夏季調査時撮影</p>	概況	観光道路ビーナスライン沿道に位置し、車山及び八島湿原方面へのトレッキングコースと接続している。駐車場、レストハウス、トイレ等が整備されており、利用拠点となっている。なお、この場所から対象事業実施区域は見えるため、景観調査地点として設定した。
	春季	草原は冬枯れの状態であった。ドライブ中の立ち寄り、休憩、トレッキング、散策等の利用が見られた。
	夏季	草原は緑となり、ニッコウキスゲ、マツムシソウ等の草花の開花も見られた。ドライブ中の立ち寄り、休憩、トレッキング、散策等の利用が見られた。ピーク時は駐車場が満車となり、駐車できない車が発生していた。
	秋季	草原は枯れていた。ドライブ中の立ち寄り、休憩、トレッキング、散策等の利用が見られた。
	冬季	積雪があり、駐車場は一部のみが除雪されていた。スノーシュートレッキング等の利用が見られた。

2) 利用状況・資源状況・周辺環境の情報

触れ合い活動の場の利用状況・資源状況・周辺環境の情報の把握については、地点により利用者の多寡が見られたことから、表 4-13-4 に示す方法にて行った。

表 4-13-4 利用状況・資源状況・周辺環境の情報の把握方法

地点名	把握方法
地点 1 大清水	地域住民への聞き取り
地点 2 十五社	
地点 3 吉田山・市民の森	管理者への聞き取り
地点 4 池のくるみ	土地所有者への聞き取り
地点 5 霧ヶ峰・車山肩	利用者への聞き取り

把握した結果を、表 4-13-5(1)～(5)に示す。

表 4-13-5(1) 利用状況・資源状況・周辺環境の情報の把握結果

調査地点	把握結果
1 大清水	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区住民が誇りとしている。 ● 江戸時代には水車が設置され、わらたたきや石臼が用いられていた。たいたわらはぞうりやわらじ、むしろを作った。また石臼は精米や製粉に利用した。マスの養殖が試みられたこともある。 ● 水道水源としては、現在は茅野市が管理している。元々は北大塩の水道組合が管理していた。米沢地区で使われているほか、他からの水と合わさって、茅野市街地へも送られている。 ● 現在は主に地区のかんがいに用いられている。かつては生活用水として普通に使っていた。 ● 水汲みには茅野市、諏訪市周辺のほか、岡谷市や松本市からも来ている。年間を通じて来ている。 ● 野沢菜の葉洗いは11月末頃がピーク。
2 十五社	<ul style="list-style-type: none"> ● 秋の大祓祭（例年11月下旬）に最も多く人が集まる。
3 吉田山 市民の森	<ul style="list-style-type: none"> ● 開山期間は、毎年4月1日～11月14日の間。 ● 横河口は間伐作業のための出入り口として整備された。一般の利用者による利用は少ない。市民の森のメインの出入り口は、ビーナスライン沿道の鋳物師屋付近である。 ● 間伐作業は4月下旬～10月末の間、主に水曜と土曜に実施している。 ● 市主催の行事は、春の森開きと秋の育林祭の年2回。参加者数は、春が100人弱、秋が50～100人程度。この他、市とNPO共催の行事として、5月中旬と9月下旬に自然観察会をNPOが開催している。参加者は概ね20人程度。 ● NPOによる行事は、一般募集を行っているものが約20回。内容は、自然観察会、伐木技術講習会、製材研修会、キノコ原木づくり、等。開山期間中、定期的に行っているものもある。
4 池のくるみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 霧ヶ峰の草原は、平安時代から長きにわたって利用されてきた。主に採草地として、火入れや草刈りが行われ、草原の環境が保たれてきた。人と自然のバランスにより保たれてきた環境である。 ● 草刈りは秋に行われ、主に牛馬など家畜の飼料として用いられた。 ● 雑木は焼いて炭として利用した。 ● 昭和30年以降、草の利用が行われなくなり、カラマツなどの植林が進んだ。 ● 雑木の増加・成長とともに、池のくるみで水涸れが起きるようになった。雑木処理を行ったところ、再び水が溜まるようになった。 ● 池のくるみには散策路はあるものの、草原の中の道であり、日射しを遮るような場所がない。また、夏に突然の雨に見舞われた時に、雨宿りできるような場所もないため、利用しづらいという声がある。

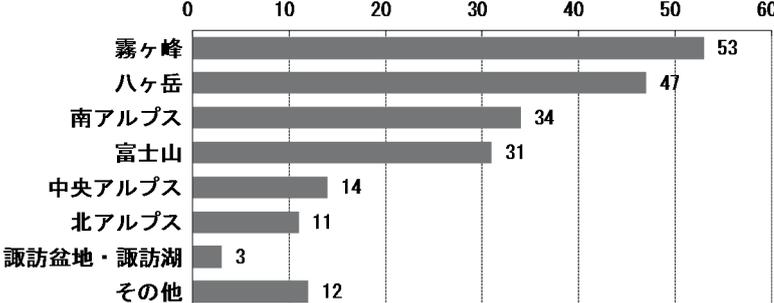
表 4-13-5(2) 利用状況・資源状況・周辺環境の情報の把握結果

調査地点	把握結果																																																																						
5 霧ヶ峰 ・車山肩	<p>①回答者の属性</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="478 246 829 694"> <p>性別</p> <table border="1"> <tr><th>性別</th><th>割合</th></tr> <tr><td>男性</td><td>72.0%</td></tr> <tr><td>女性</td><td>20.0%</td></tr> <tr><td>未回答</td><td>8.0%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="845 246 1197 694"> <p>年代</p> <table border="1"> <tr><th>年代</th><th>割合</th></tr> <tr><td>50代</td><td>29.0%</td></tr> <tr><td>30代</td><td>20.0%</td></tr> <tr><td>60代</td><td>18.0%</td></tr> <tr><td>40代</td><td>7.0%</td></tr> <tr><td>20代</td><td>10.0%</td></tr> <tr><td>70代</td><td>4.0%</td></tr> <tr><td>10代</td><td>4.0%</td></tr> <tr><td>80代以上</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>未回答</td><td>8.0%</td></tr> </table> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="478 716 829 1142"> <p>同伴者</p> <table border="1"> <tr><th>同伴者</th><th>割合</th></tr> <tr><td>家族</td><td>70.0%</td></tr> <tr><td>友人・恋人</td><td>11.0%</td></tr> <tr><td>一人</td><td>12.0%</td></tr> <tr><td>グループ</td><td>7.0%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="845 716 1197 1142"> <p>居住地域</p> <table border="1"> <tr><th>居住地域</th><th>割合</th></tr> <tr><td>県外</td><td>90.0%</td></tr> <tr><td>県内</td><td>5.0%</td></tr> <tr><td>諏訪市</td><td>4.0%</td></tr> <tr><td>茅野市</td><td>1.0%</td></tr> </table> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 霧ヶ峰・車山肩では、100名に対して聞き取りを行った。 ● 年代は10代から70代まで幅広く利用していた。 ● 家族連れが全体の70%を占めていた。 ● 90%は県外からの利用者であった。なお、長野県外の居住地域別では、愛知県が最も多く、次いで東京都、神奈川県の順であった。 <p>②利用状況</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="478 1388 829 1836"> <p>交通手段</p> <table border="1"> <tr><th>交通手段</th><th>割合</th></tr> <tr><td>自家用車</td><td>94.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3.0%</td></tr> <tr><td>バス</td><td>3.0%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="845 1388 1197 1836"> <p>目的</p> <table border="1"> <tr><th>目的</th><th>割合</th></tr> <tr><td>登山・ハイキング・トレッキング</td><td>45.0%</td></tr> <tr><td>立ち寄り・休憩</td><td>25.0%</td></tr> <tr><td>散策</td><td>24.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3.0%</td></tr> <tr><td>食事</td><td>2.0%</td></tr> <tr><td>未回答</td><td>1.0%</td></tr> </table> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通手段は、自家用車が94%であった。 ● 利用目的は、登山・ハイキング・トレッキングが45%で最も多く、立ち寄り・休憩、散策がそれぞれ24~25%で同程度であった。 	性別	割合	男性	72.0%	女性	20.0%	未回答	8.0%	年代	割合	50代	29.0%	30代	20.0%	60代	18.0%	40代	7.0%	20代	10.0%	70代	4.0%	10代	4.0%	80代以上	0.0%	未回答	8.0%	同伴者	割合	家族	70.0%	友人・恋人	11.0%	一人	12.0%	グループ	7.0%	居住地域	割合	県外	90.0%	県内	5.0%	諏訪市	4.0%	茅野市	1.0%	交通手段	割合	自家用車	94.0%	その他	3.0%	バス	3.0%	目的	割合	登山・ハイキング・トレッキング	45.0%	立ち寄り・休憩	25.0%	散策	24.0%	その他	3.0%	食事	2.0%	未回答	1.0%
性別	割合																																																																						
男性	72.0%																																																																						
女性	20.0%																																																																						
未回答	8.0%																																																																						
年代	割合																																																																						
50代	29.0%																																																																						
30代	20.0%																																																																						
60代	18.0%																																																																						
40代	7.0%																																																																						
20代	10.0%																																																																						
70代	4.0%																																																																						
10代	4.0%																																																																						
80代以上	0.0%																																																																						
未回答	8.0%																																																																						
同伴者	割合																																																																						
家族	70.0%																																																																						
友人・恋人	11.0%																																																																						
一人	12.0%																																																																						
グループ	7.0%																																																																						
居住地域	割合																																																																						
県外	90.0%																																																																						
県内	5.0%																																																																						
諏訪市	4.0%																																																																						
茅野市	1.0%																																																																						
交通手段	割合																																																																						
自家用車	94.0%																																																																						
その他	3.0%																																																																						
バス	3.0%																																																																						
目的	割合																																																																						
登山・ハイキング・トレッキング	45.0%																																																																						
立ち寄り・休憩	25.0%																																																																						
散策	24.0%																																																																						
その他	3.0%																																																																						
食事	2.0%																																																																						
未回答	1.0%																																																																						

表 4-13-5 (3) 利用状況・資源状況・周辺環境の情報の把握結果

調査地点	把握結果																																								
5 霧ヶ峰 ・車山肩 (つづき)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="443 224 821 660"> <p>利用頻度</p> </div> <div data-bbox="925 224 1324 660"> <p>滞在時間</p> </div> </div> <div data-bbox="470 683 1268 1041"> <p>利用頻度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>利用頻度</th> <th>回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>夏</td><td>46</td></tr> <tr><td>秋</td><td>14</td></tr> <tr><td>春</td><td>9</td></tr> <tr><td>冬</td><td>7</td></tr> <tr><td>連休や休暇</td><td>3</td></tr> <tr><td>帰省した時</td><td>3</td></tr> <tr><td>平日</td><td>0</td></tr> <tr><td>週末</td><td>0</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3</td></tr> </tbody> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用頻度は、初めての利用者が約 40%、複数回利用者は約 60%であった。複数回利用者のうち、最も多かったのは数年に 1 回（約 25%）であった。 ● 複数回利用者の利用時期は夏が最も多く、次いで秋、春の順であった。 ● 滞在時間は、2～3 時間が 31%と最も多かった。登山・ハイキング・トレッキング目的の利用者の多くが該当するとみられる。 <p>③魅力</p> <div data-bbox="470 1355 1268 1713"> <p>魅力</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>魅力</th> <th>回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>景色が良い</td><td>96</td></tr> <tr><td>草花がきれい</td><td>40</td></tr> <tr><td>空気がきれい</td><td>37</td></tr> <tr><td>アクセスが良い</td><td>24</td></tr> <tr><td>静かで落ち着く</td><td>14</td></tr> <tr><td>運動に良い</td><td>13</td></tr> <tr><td>施設が整っている</td><td>7</td></tr> <tr><td>イベントが開催される</td><td>1</td></tr> <tr><td>その他</td><td>4</td></tr> </tbody> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 魅力は「景色が良い」が最も多く、回答者のほぼ全員が回答した。次いで、「草花がきれい」「空気がきれい」の順であった。 	利用頻度	回答数	夏	46	秋	14	春	9	冬	7	連休や休暇	3	帰省した時	3	平日	0	週末	0	その他	3	魅力	回答数	景色が良い	96	草花がきれい	40	空気がきれい	37	アクセスが良い	24	静かで落ち着く	14	運動に良い	13	施設が整っている	7	イベントが開催される	1	その他	4
利用頻度	回答数																																								
夏	46																																								
秋	14																																								
春	9																																								
冬	7																																								
連休や休暇	3																																								
帰省した時	3																																								
平日	0																																								
週末	0																																								
その他	3																																								
魅力	回答数																																								
景色が良い	96																																								
草花がきれい	40																																								
空気がきれい	37																																								
アクセスが良い	24																																								
静かで落ち着く	14																																								
運動に良い	13																																								
施設が整っている	7																																								
イベントが開催される	1																																								
その他	4																																								

表 4-13-5(4) 利用状況・資源状況・周辺環境の情報の把握結果

調査地点	把握結果																		
5 霧ヶ峰 ・車山肩 (つづき)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="491 219 598 253" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">景観資源</div> <div data-bbox="1193 232 1262 264">回答数</div> </div>  <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>景観資源</th> <th>回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>霧ヶ峰</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>八ヶ岳</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>南アルプス</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>富士山</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>中央アルプス</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>北アルプス</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>諏訪盆地・諏訪湖</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="470 593 1348 795">● 「景色が良い」という回答について、特にどの景色が良いかを尋ねた結果、「霧ヶ峰」という回答が最も多くなった。この回答には、「草原」や「草花」も含んでいる。次いで多かったのは「八ヶ岳」「南アルプス」の順であった。利用者の多くが、近景としての霧ヶ峰草原と、遠景としての八ヶ岳や南アルプスの山々の風景を楽しんでいることがうかがえた。</p>	景観資源	回答数	霧ヶ峰	53	八ヶ岳	47	南アルプス	34	富士山	31	中央アルプス	14	北アルプス	11	諏訪盆地・諏訪湖	3	その他	12
景観資源	回答数																		
霧ヶ峰	53																		
八ヶ岳	47																		
南アルプス	34																		
富士山	31																		
中央アルプス	14																		
北アルプス	11																		
諏訪盆地・諏訪湖	3																		
その他	12																		

3) 交通の状況

交通の状況の調査結果は、「第2節 騒音」に示したとおりである。

1 3 - 2 予測及び評価の結果

1. 工事中における工事関係車両の走行に伴う交通への影響

1) 予測結果

工事関係車両が最大となる時期(工事開始後 20 ヶ月目)における将来交通量を、表 4-13-6 に示す。

地点 C における工事関係車両台数は 10 台、一般交通量と工事関係車両台数を合わせた将来交通量は 395 台となり、寄与率は 2.5% となった。この結果より、地点 C においては工事用車両の走行が少なく、影響は小さいものと予測する。

触れ合い活動の場の地点 1~3 は、工事関係車両の走行ルート沿道に位置しているものの、工事関係車両の走行が少なく、各地点へのアクセスへの影響は小さいものと予測する。地点 4、5 は工事関係車両の走行ルート沿道ではないことから、各地点へのアクセスへの影響はないものと予測する。

表 4-13-6 予測地点の将来交通量（断面交通量）

地点番号	予測地点	断面交通量（台/日）			
		一般交通量 ①	工事関係 車両台数 ②	将来交通量 ③=①+②	寄与率 (%) ②/③
C	茅野市米沢	385	10	395	2.5

2) 予測結果の信頼性

予測結果の信頼性に係る条件の設定内容及び予測結果との関係を表 4-13-7 に示す。

予測にあたっては、工事用車両の運行台数については台数が最大となる時期を採用している。このため、予測結果は環境影響の程度を評価するにあたって十分な信頼性を有していると考ええる。

表 4-13-7 予測の信頼性に係る条件設定内容及び予測結果との関係

項目	設定内容	予測結果との関係
工事用車両台数	工事用車両は、工事の最盛期となる工事開始後 20 ヶ月目の台数が走行する条件とした。	台数が最大となる時期の工事用車両台数を予測条件として用いている。このため、予測結果については影響が最大となる場合の条件を考慮していると考ええる。

3) 環境保全措置の内容と経緯

工事中における工事用車両の走行に伴う交通への影響を緩和するためには、発生源対策として交通量の分散、作業時間への配慮等が考えられる。

また、小学生などの通学時間帯は、工事用車両の走行を控えるなど発生源対策以外のことについても実施することとした。

本事業の実施にあたっては、できる限り環境への影響を緩和させることとし、表 4-3-8 に示す環境保全措置を講じる。

表 4-13-8 環境保全措置（工事関係車両の走行による交通への影響）

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類 ^{注)}
交通量の分散・走行時間への配慮	工事用車両の走行が集中しないよう走行の時期・時間の分散に努める。特に朝の通学時間帯は、走行を行わないよう配慮する。	低減
交通規制等の遵守	工事用車両は、速度や積載量等の交通規制及び指定走行ルート、交通規制等を遵守するよう指導する。	低減
アイドリングストップ・エコドライブの励行	アイドリングストップ・エコドライブを励行するよう指導する。	低減

注) 【環境保全措置の種類】

低減：継続的な保護又は維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

4) 評価方法

調査及び予測の結果並びに検討した環境保全措置の内容を踏まえ、以下の観点から評価を行った。

(1) 環境への影響の緩和の観点

交通の状況の影響が、実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされているかどうかを検討した。

5) 評価結果

事業の実施にあたっては、「3) 環境保全措置の内容と経緯」に示したように、事業者としてできる限り環境への影響を緩和するため、「走行時間の分散」、「交通規制等の遵守」、「アイドリングストップ」といった環境保全措置を講じる計画である。

以上のことから、工事中における工事関係車両の走行に伴う交通の状況への影響については、環境への影響の緩和に適合するものと評価する。

